

投資信託の世界統計（2015年第1四半期）について

国際投資信託協会（IIFA）¹が加盟各協会の協力の下に集めたデータによると、2015年第1四半期（1月～3月）末の世界の規制オープンエンド投資信託²の残高は2014年第4四半期末から0.8%増加し37.28兆ドルとなった（ファンドオブファンズを除く）。また、2015年第1四半期は世界全体で5,540億ドルの資金純流入となった。2014年第4四半期は、5,480億ドルの資金純流入であった。（詳細は別添のとおり。）

（参考）投資信託の世界統計の集計方法の変更について

1. 経緯

- (1) IIFA が公表する「投資信託の世界統計」については、米国投資会社協会（ICI）が事務局となって加盟協会が提出したデータを四半期毎に集計し、公表している。
- (2) IIFA では、世界統計の重要性の観点から、世界統計のあり方について過去数年にわたり検討を行い、その結果、新しい集計方式による世界統計の公表を決定した。

2. 新しい統計と日本への影響

- (1) 新方式では、報告対象を①実質的に規制されているファンドで、②オープンエンド型、③自国籍であることとする。
- (2) 上記報告対象の拡大により、新たに、上場投信（ETFs）、機関投資家向けファンド（institutional funds）、オープンエンド型の不動産ファンド（real estate funds）等が加わる。
- (3) 新方式に基づく世界統計の公表は、2015年第1四半期の公表時より実施する。参考として新方式に則った2014年第4四半期のデータも併せて公表する。
- (4) 日本への影響としては、従来提出してきた公募証券投資信託に、私募投資信託及び証券投資信託以外の投資信託等が含まれることとなり、その結果、2014年第4四半期ベースで46.8兆円、日本が世界統計として報告する投信残高は増加する。
- (5) なお、新しい報告対象の定義によれば、オープンエンド型の私募REITが含まれるが、日本のREIT市場は、クローズドエンド型のものが主流を占めており、オープンエンド型の私募REITのデータのみを提出することは、日本のREIT市場を概観したデータとは言いがたい面もあることから、今回の統計には含まれていない。この取り扱いについては、今後検討することとしている。

※詳細については、IIFA 公表資料（別紙）を参照。

¹ 世界各国の投資信託協会が加盟する国際組織。

² 規制オープンエンド投資信託とは、ミューチュアルファンド、上場投信、機関投資家向けファンドを含む。以下「投資信託」という。